

2019. 5. 9

畑 啓之

「ものを考えないということ」を知ると、「考えること」が見えてくる

人間すべてに満足すると退化していくものである。知力を維持するためには常にながしかの負荷を脳にかけ続けて行く必要がある。人は困ったときには知恵が湧いてくるものである。その脳への負荷を意識的にかけられるようになれば、それが正に「知的生活」への入り口となる。「継続は力なり」というが、毎日の少しずつが長い期間では大きな差となってあらわれてくる。

まず、「残念な人の思考法」という本についてである。この本は、コンサルタントの手によるものであり、ビジネスでの生産性向上に重点が置かれている。少しなじみの薄い部分があるかもしれないが、過去の多くの知見を取り入れた効率的なものの考え方について記されている。本書よりその一部を抜き出す。

残念な人は前提条件を間違えている。

便利になると残念な人が増える。

システムを使って仕事をする人間が単なるオペレーターに成り下がってしまう。

PREP 法 結論を示し (Point)、理由を述べ (Reason)、具体例を述べ相手を納得へ導き (Example)、再度結論を示す (Point)。 ※これができれば頭の整理ができていくということです。

成功の基は成功である。 ※たとえ小さな成功体験であっても、それが自信となり未来へとつながっていく。

ノウハウは公開しても全く問題ない。なぜなら、大変なのは「実行すること」だからだ。

「意識」に注目するのではなく、「行動」の変革に取り組まなければならない。
SMART の法則 具体的である (Specific)、測定可能である (Measurable)、納得している (Agreed)、実現可能である (Realistic)、今やるべきことである (Timely)。

壁は自分で作ってしまう。



目次

プロローグ なぜ残念なのか

1章 残念な人はつくられる

2章 二流は掛け算で考え、一流は割り算で考える

3章 残念な人は「塗り絵」ができない

4章 機能だけを磨いても二階には上がれない

5章 人生を残念にしないためのプライオリティ

内容紹介 (Amazon)

能力があってやる気も十分なのに、成果が出せないのはなぜ?—その仕事が失敗するのは、「考え方の出発点=プライオリティ」に問題がある。日々の仕事に今日から応用できる思考法のエッセンス集。

つぎに「考えないヒト」ですが、ヒトが人ではなくて生物学的なヒトになっています。人間は人の間で交流し、助け合い、迷惑をかけたりかけられたりしながら、信頼関係の下で成長していきます。本書の副題は「ケータイ依存で退化した日本人」です。前書きには「生身の人間は、情報 (DNA) の単なる乗り物あるいは器と化し、結果として『ひとり』と呼ばれる存在から、ただ操られるだけの『一匹』の存在に墮するのではないか、というのが本書のテーマである」「IT はサル化を促す!」とあります。

本書の目次を示せば、そのおおよその内容は推測できるでしょう。



内容 (「BOOK」データベースより)

通話、通信からデータの記憶、検索、イベントの予約まで、今や日常の煩わしい知的作業はケータイに委ねられている。IT 化の極致ケータイこそ、進歩と快適さを追求してきた文明の象徴、ヒトはついに脳の外部化に成功したのだ。しかしそれによって実現したのは、思考力の衰退、家族の崩壊などの退化現象だった。出あるき人間、キレルヒトは、次世代人類ではないのか。霊長類研究の蓄積から生まれた画期的文明・文化論。

目次

はじめに——裸のサルとしてのケータイ主義の人間

情報に支配される人間 これからの日本人像
ITはサル化を促す！

第一章 出あるく.....

「出あるき人間」は次世代人類の先がけ？ 従来
の家出との相違点 遊動・採食の反復 ケータイ
の普及の影響 ただ同居しているだけの家族
消極的な育児拒否 地域に根ざした「出あるき」
平等と気づくばりのコミュニケーション 気づき
の進化 「出あるき人間」の平等主義 好まし
くないベア行動 親しい者との「役割」演技
「分節化」したコミュニケーションへの拒絶 共
時性の重視、通時性の軽視 プライヴェートな関
係維持のむずかしさ 匿名メールとしての告白
ネットでのコミュニケーション

第二章 キレル.....

コミュニケーションの退化 人間とサルの違い
語用論能力の衰退 誤解を防ぐアイコン 現代
日本的なコミュニケーション ギャル文字・へた
文字の発明 私的コミュニケーションの徹底
行動の衝動性 言語操作の欠如 ワーキングメ
モリーという考え方 左脳人間と右脳人間 瞬
間に生きる人間 異邦人ムルソーの行動

第三章 ネット依存症.....

ネット恋愛の発達 恋愛の進化史 美人・美男

第四章 文化の喪失.....

のルーツ 美しさの生物学的基礎 美的感覚と
現実の行動との乖離 繁殖から逸脱したセックス
の進化 あいさつとしての性交渉 役割演技を
楽しむ 夢とうつつ 覚醒水準の多層性 ネット
上での願望成就 あやういシステム 高校
教諭殺人事件 ネット心中の誕生

第五章 サル化する日本人.....

文明と文化の違い 集団内凝集性と集団外排他性
の促進 規範と価値 イラクとアメリカ 価
値としてのブランド ケータイ普及の影響 婦
属意識の喪失 環境によって決定される自己像
他者との関係で自己は規定される 他者からの期
待と自己実現 認知的集団の限界 自他の区分
の曖昧化 最後の抵抗としてのオウム 価値喪
失社会への絶望 そして誰も考えなくなった

人間はいつ人間になったか 「言語遺伝子」の発
見 ミラーシステムの進化 言語の身ぶり起源
ワーキングメモリーシステムの形成 「公共」と
いう場の誕生 家族の誕生 「父性」の役割
地域共同体と文化 自己の誕生と崩壊 サル化
する日本人

あとがき 183

二つの進化 優生思想を超えて 進歩を志向す
る人間の本性 最先端をいく日本 稀薄化する
父性 東アジアの社会問題 おわりに

そして、いよいよ渡部昇一著「新・知的生活の方法 ものを考える 人考えない人」です。
参考になると思われる部分を抜き出しました。

自分の興味を喚起したことは、可能な限り追及する。そして、それが意外な時に意外なもの
と結びついてアイデアを生み出す。

学問をするには、まず志を立てることが何よりも大切だ。

精神的に自立するというのは、自分自身になり切ることを言う。

アメリカが全体として国力が落ちない理由の1つには、志を立て、自分の力で道を切り開いていかなければ、敗者になりやすい競争社会だからである。

不幸なことに、どうしても今の日本では、何をやりたいかという夢や希望が、子供の時から抑えられてしまいがちだ。

「頭を鍛える」ために、手っ取り早い方法が2つある。良き師とよきライバルを持つことである。

いくら頭が良くても、ものを書くことを疎んじると、知識は杜撰（ずさん）に流れやすく、記憶も不正確になりがちである。

嫉妬心を「向上心」に高め合えるライバルがいるか。

中年を過ぎると遊びにお金が必要になる、使えるお金の水準が友達のレベルを決める。

一般的に本をたくさん読んでいる人は、話を聞いても面白い。語彙（ごい）が豊富なばかりではなく、比喩的表現が巧みである。

失敗したら自分の努力が足りなかったせいにし、成功したら運のおかげにする。そういう人物こそ偉大である。

不祥事を起こしたり悪運に見舞われたりした人たちを調べてみると、ことごとく自らを責めることをせずに、他人ばかりを責めたり恨んだりする人間である。

何よりも肝心なのは、思い切ってやり始めることである。

「余暇」は単なるリクリエーションとは違う。余暇は、本質的に「規律ある余暇」でなければならない。

情報を「うまく生かす人」は結局、「うまく捨てる人」である。

知力の根幹は暗記力である。



目次

- 1 こんな知的刺激が後々まで「ものを言う」
 - 2 「師」に何を学ぶか、「ライバル」とどう磨き合うか
 - 3 「考える力」が必然的につく読書法
 - 4 知的生活の「環境」をどうつくるか
 - 5 よく生きるために不可欠な「運」の呼び込み方
 - 6 着実に“成果を上げている人”の時間活用術
 - 7 情報を生かす人、情報を生かせない人
 - 8 頭脳鍛練の基本—記憶力・発想力を育てる
 - 9 自分の夢と現実をイコールで結ぶ生き方
- 10 測れる知力と測れない知力について
- 11 知的生活と経済基盤—目先の煙に巻かれない生き方

内容（「BOOK」データベースより）

ベストセラーとなった『知的生活の方法』から四半世紀が経ち、私もそれからいろいろな経験や新しい知見を得て、「知的生活」というものに対して、新しく気づいたことや再び強調したいことも出てきた。それをまとめたのがこの本である。